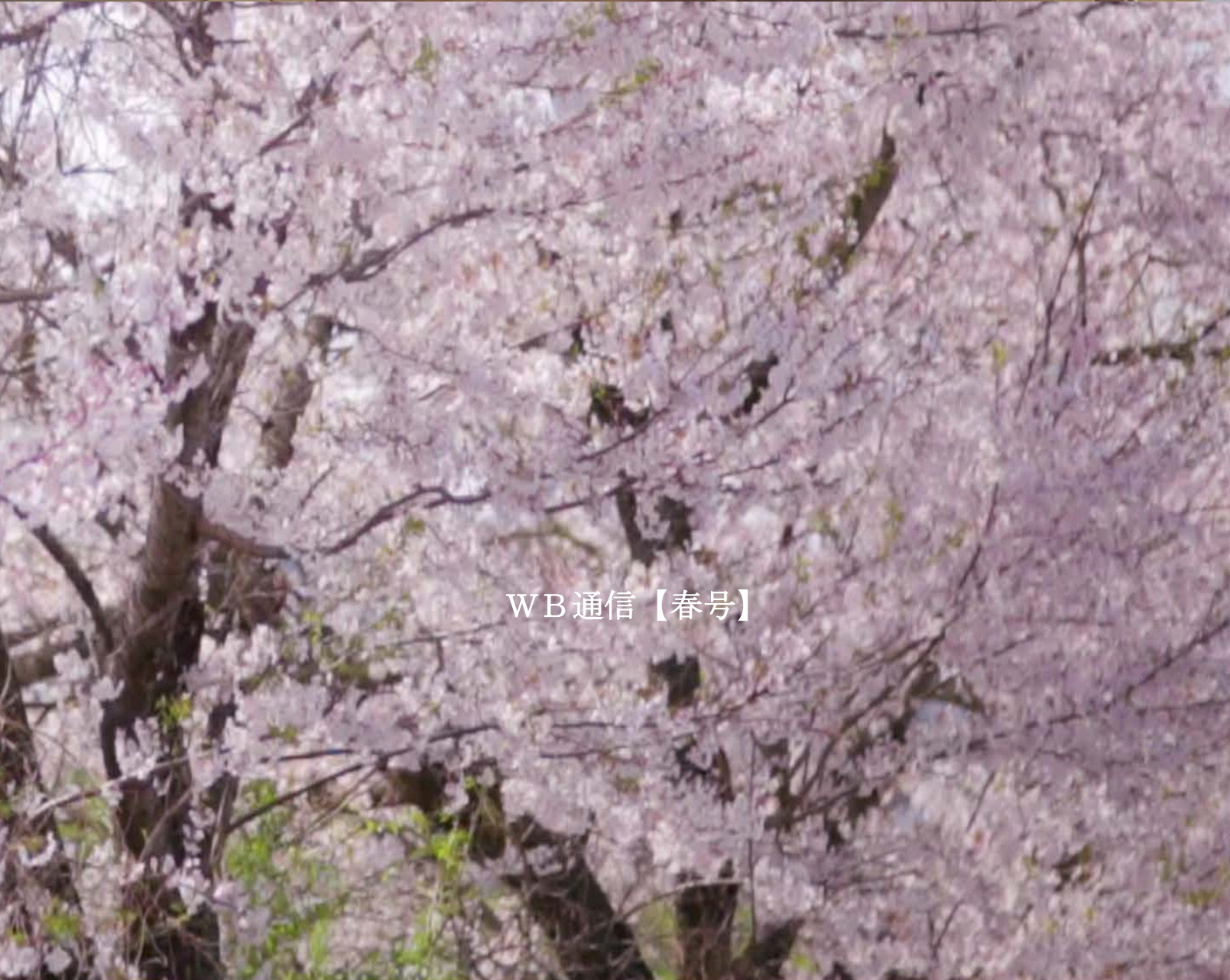




深呼吸したくなる家

wb-koho.com



WB通信【春号】

コラム

深呼吸したくなる家

人・家・地球の健康を未来の子供達へ

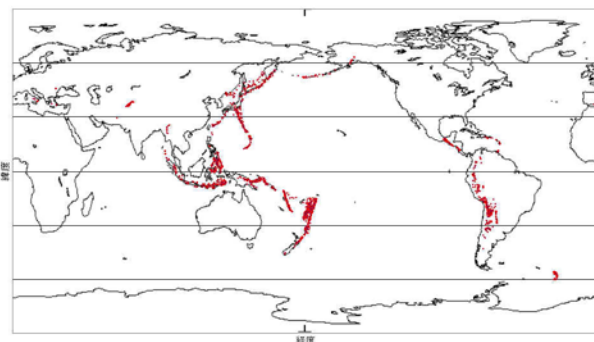
地震大国日本に生きる

暖冬の影響もあったのでしょ、桜も早々咲き暖かくなって一番良い季節になってきました。日本には四季があり、桜の花の咲くころは日本に生まれて良かった、なんて思うのは私だけでしょうか。眠っていた冬から徐々に目を覚ましてゆく自然は優しい色に包まれ気持ちも穏やかにしてくれます。

世界でもまれな四季のはっきりした素晴らしい国である日本ですが、反面3月11日は東日本大震災から5年が経過し各地で追悼が行われました。そしてまだ大震災の傷も癒えぬうちに熊本で震度7の大地震が起こり大変な被害となりました。あらためて被災地域の皆様には心よりお見舞い申し上げますと共に一日も早い復興を祈念申し上げます。

ここ数年頻発する大地震が物語るように私達の住む日本は大変な地震大国でもあります。世界で発生する地震の10~15%は日本で発生しています。当然これだけの地震が頻発する国です、住宅の強度に関しては他の国に比べ格段に高い基準で建てられます。諸外国の地震のニュースを見ると、多くの建物が倒壊する映像が流されますが、震度を聞くと日本ではおよそ倒壊するような揺れではありません、それだけ日本の住宅の強度が高い証明でもあるでしょう。

さて、春号は耐震性や耐久性について『深呼吸したくなる家』がどうなのか？一見、呼吸と地震対策や寿命は結びつかないのでは？実はWB工法の家は地震に強く寿命も長い。耐震性と耐久性に優れた仕組です。人にたとえるなら、体の丈夫な人、健康長寿な人は外見だけでなく内側（骨や内臓・精神）が違ふとよく言いますよね。見た目は派手だけど不健康ということでは災害に耐えられません。



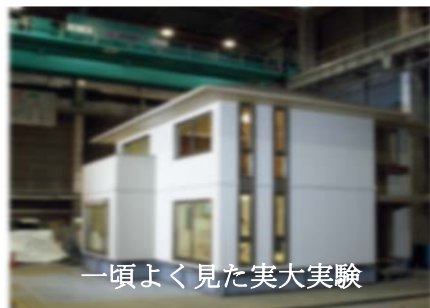
地震対策

どこがポイント？

いつ起きるかわからない地震

地震は予知できません。例えば家を建てて5年後なのか20年後なのか50年後なのか、先ほどの話、日本の住宅の新築時の強度は世界でもトップクラスの耐震基準をクリアしています。新築の家が倒壊することはごくまれです。しかし、こんなCMを見た方は多いのではないのでしょうか。実際の建物を地震を再現する装置にのせ揺らして見せるものです。大手メーカーが作る家も地元の工務店さんが作る家も建築基準法通り設計施工され確認を通していけば皆同じ耐震性を有していることとなります。実験はパフォーマンスでしかありません。

本当の地震対策は建てた後から始まります。最初は同じに丈夫でも年を経るごとに、強度が弱っていくスピードが速い家と新築時の強度が長い事持続する家とでは50年後に同じ地震が起きても耐力が違いますね。ではできるだけ新築時の強度を持続するにはどうしたらいいのでしょうか？答えは簡単ですね。人でいえば病気に罹らないことです。例えば家の病気とはなんでしょう、きっと皆さんすぐに思い当たるのはシロアリに入られたらもろくなるのでは、それも正解です。家の足腰は最近では壁の中に隠れてしまった土台や柱、梁や桁という材木です、人でいう骨にあたりますね。骨折したり骨粗鬆症になったりを家に置き換えれば、材木が腐る、または蒸れる、そこに腐朽菌が入るまたはシロアリがつくことを言います。そのようなことが起きにくい条件を造ることが本当の意味での地震対策なのです。



耐震性＝耐久性

強さを維持する二つのポイント

家の強さを維持するためには

地震に対する強さとは実は家の耐久性に等しいのではないのでしょうか、私は若い頃 100 年経つ民家のリフォームを手掛けました。大きな民家で施主の奥さんとはにかく冬は寒いので、暖かくしたいとの要望でした。そのお宅は石の上に土台が乗っていて床下は吹きサラシでした、寒いわけです。ただ土台を見てすごいなと感じたのは、ほとんどいたんでいないことでした。なるほど通気が良い事で 100 年持ったわけだと思い感心していたのですが、ある場所だけ土台が腐っていたのです。施主さんによると更に 20 年前にダイニングキッチンだけリフォームしたとのことで、その部屋のサッシの下の土台が腐って切れていました。柱が見えている土壁だった部屋は上からベニヤ板を貼り、ビニールクロスが貼られていました。奥さん曰く、見た目はきれいになり、以前より隙間風もなくなったが、結露は逆にひどくなったとのことでした。特にキッチンで水を使う場所ということもあったでしょう。サッシの結露水が壁の中へ入りそこに集中していました。以前の御勝手ではあまり起きなかった結露がリフォームをして増えた。これはその頃のリフォームでよく起きた現象でした。当時の家はみな土壁でした。土は生活の中で発散される水蒸気（4 人家族で 6 畳にもなる）を吸収し太陽が当たれば自然に屋外へ放出してくれました。ところがその自然素材で吸湿・透湿効果のある壁の上から、ベニヤやビニールクロスを貼ったわけです。効果は止まり室内の湿度は上りサッシや壁の中で結露水が発生し土台を腐らせたのです。



未来への贈り物

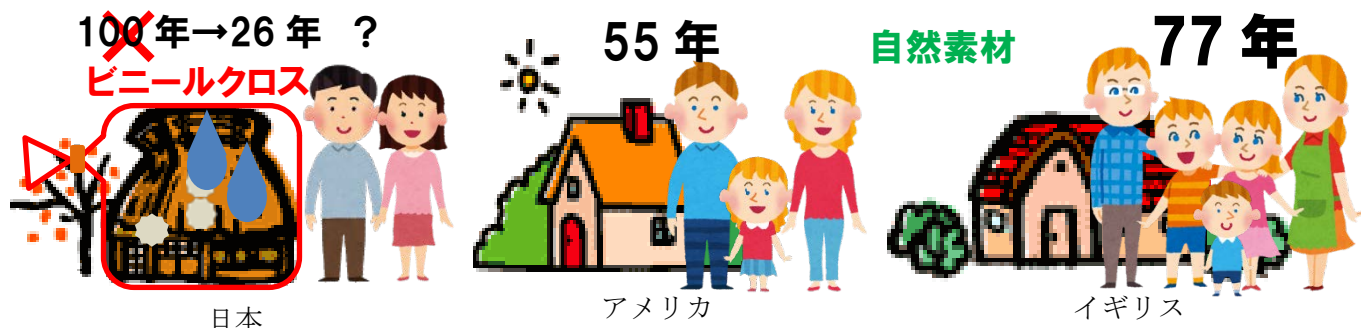
良い物を長く使う豊かさ



『長寿国日本』家は超短命

100年ピンシヤンしていた土台が20年で腐った原因は例えば生活の中で発散される水蒸気がある条件で水に変わり、土台や柱を根元から腐らせる結果につながりました。もし全体的にこの様な腐れが進んでいるところに大きな地震が起きれば倒壊の恐れもあるでしょう。日本は先進国の中では、最も高温多湿な地域になります。寒い冬に熱を抱えようと閉じるのはいいのですが、湿気も一緒に抱えそれを壁の中で水にして、更に湿度の高い梅雨に突入します、夏に入ってより高温で蒸れ腐れを進行させるのです。前号で空気環境は湿気対策にありとお伝えしましたが、実は地震対策も湿気対策なのです。

100年近い寿命を誇った日本の民家、しかし現在の住宅の平均寿命は26年。同じ先進国ではアメリカが55年、イギリスが77年と2倍3倍。イギリスにはこんな“ことわざ”があるそうです。『一代目が家を買、二代目が家具を買、三代目が食器を買う』77年持てば二代三代はローンに苦しまず良い買い物ができる例えです。かたや26年では代々ローンを組み続けることになり日本人ははたして豊なのでしょうか？この寿命の違いは気候もさることながらビニールクロスが壁紙の98%を占める日本に対しほぼ塗り壁もしくは水性塗料で仕上げるイギリスとの造りの差も関係しているでしょう。なんととっても子供達への一番大きな贈り物は家ですよね。うちのじいちゃんの家は丈夫で長持ち『大したもんだ』と子供や孫も喜ぶでしょう。





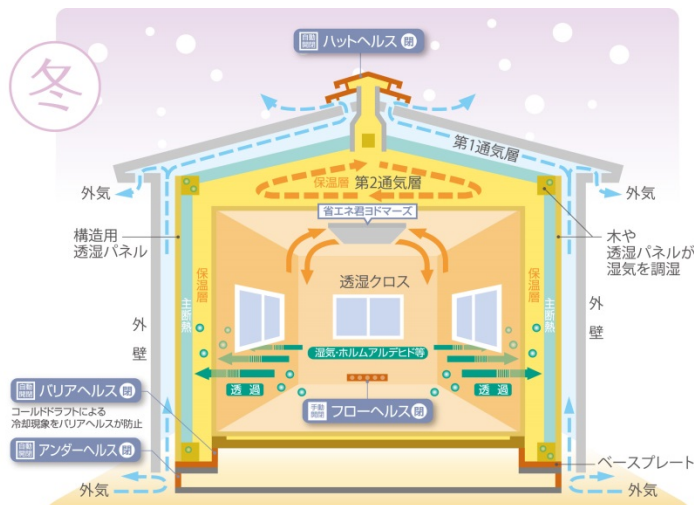
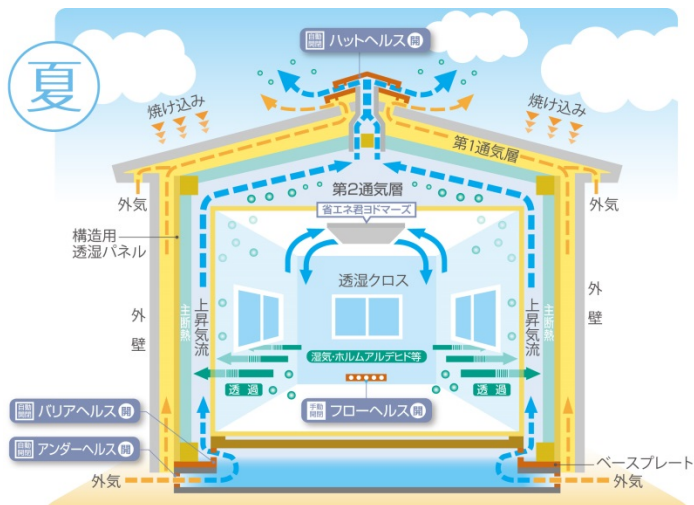
通気と自然素材

扱い方を知る地場工務店

高温多湿の日本は湿気との戦い

日本には世界で最古の木造建築『法隆寺』があります。1300年ですからすごいですね。当時の棟梁はよく癖を見て、美しくそして末永くもつように考えて組んだのでしょう。途中改修もしてはいますが日本の大工さんは大した技術を持っています。棟梁たちは木材が湿気に弱いことをよく分かっていますから、風通しをよくしておかないといけない。また昔は天然素材しかありませんでしたから、湿気を止めたり抱えたりしにくかった。ところが現在では天然素材に変わり、石油製品が当たり前の時代になったため、注意して素材を使わないと湿気を抱える構造になってしまいます。

いつ何時地震が来ても建てた時の丈夫さを維持できる家を作るには、高温多湿で非常に厳しい環境を知り、木材が（家の骨）腐ったり蒸れたりしない湿気対策をしっかりとすること＝通気を採り、湿気を逃がす（止めない）材料の扱いを知っている地元工務店が『深呼吸したくなる家』を建てているのです。



高耐久＝CO2 削減

家の寿命は温暖化対策に

高い耐久性は温暖化対策に

これだけ地球規模で自然災害が増えると皆さん温暖化の影響を心配するのは自然なことです。私達、家を手掛ける者も CO2 削減を意識し冷暖房効率のいい家を追求しています。またそういう家を皆さんにも選んでいただかなければならない時代にはいりました。ただちょっと感じるのはクールビズ同様に暖房の効く家の中でも一枚着てもらって温度を一度下げましょう。これだけでもみんなで少し意識すれば大分違うのではないのでしょうか？近頃はあまりにもあったかいから快適だ～だから売れると通気や透湿のない超高気密が主流ですが、反動で家の寿命が縮んでは本末転倒ですね。真冬にTシャツ短パンで快適だー！ところが壁の中は汗をかいていて、気づけば 20 年しか持たなかったでは温暖化対策にはならないですね。

例えば家一軒建てるのにも CO2 は排出されます。40 坪の家を建てるのに 43.8 t 出るそうです。数字だけではピンとこないかもしれませんが、しかしもし先ほどのアメリカ並みに寿命が 2 倍になれば 55 年で二軒建てずに済みますので CO2 は半分です。イギリス並みになれば更に三分の一になるということですね。

深呼吸したくなる家の『通気と透湿』は冷暖房効率と耐久性（地震対策）を両立させ温暖化対策にも貢献できるのです。よろしければ週末は全国各地の『[空気の体験会](#)』にお寄りください。お待ちしております。

【今号のまとめ】 春号はいかがでしたか。地震大国日本に住む私達にとって丈夫で長持ちする家づくりは避けて通れない課題です。実は先祖代々対策の根本は変わらないのです。そこさえきちんと押さえた家づくりをしておけば未来の子供たちに素晴らしい贈り物ができるはずですよ。

次回は蒸し暑くない涼しい家づくりをお伝えします。ではまた夏号でお会いしましょう。お読みいただきありがとうございました。

